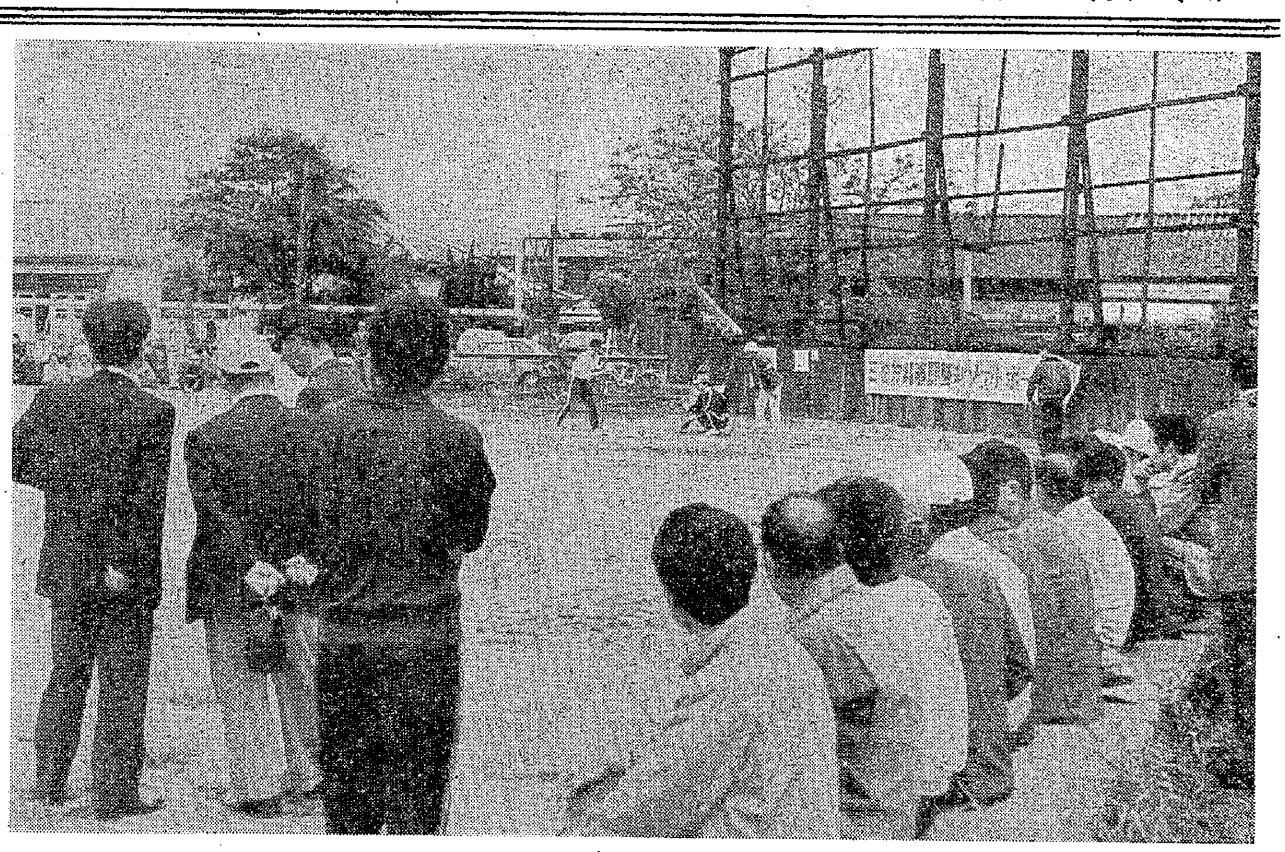
第1108号　第三種郵便物認可　みいけ　（毎月二回1日、16日）1979年5月16日（水）（六）



ソフトボール大会。初めのうちこそ、おとなしげな応援だつたが、熱戦が重なるにつれドラムカンの音まで加わり、賑やかさを増していつた。

見たゾ 春闘への気組

ストの日、にぎわうソ球大会

別項の記事にあるように、三池労組は春闘で48時間ストライキに突入した9日〝春闘勝利ソフトボール大会〟を開催。スポーツを楽しむうちに春闘への決意を固めた。

春闘勝利ソフトボール大会には十五チームが参加、新港と四山の両グラウンドに分かれ、トーナメント方式で雌雄を決し、それぞれの勝者が最後に新港グラウンドで栄冠を争った。

この日は、新港グラウンドではドラム罐を持ち出すなど、家族も加わってのはなばなしい応援戦も展開。その結果、四山Aチーム（四分会単独）が優勝。準優勝は三川十六分会万田作業所チームだった。

それぞれの栄誉をたたえて組合から、四山Aチームに清酒三本、準優勝の三川十六分会万田作業所以下のすべての参加チームに同じく清酒二本ずつが贈られ、大会終了後各チームごとに集っては打ちあげ会も催され、組合員一人ひとりが春闘への決意を語り合った。

×

決勝戦

四山A	8	11
三川16	2	7
万田	0	0
2	1	1
4	0	7
0	1	0

経過は、まず新港グラウンドでの試合に参加したのは執行部チーム（保安担当者も加えての合同）のほか、三川十六分会新港作業所に三川一～二分会、同七～八分会、四山A、港務、三川十二～十三分会の各チームで、四山グラウンドでの試合に参加したのは三川十四～十五分会、四山C、三川九～十一分会、同五～六分会、本所、三川三～四分会、四山B、三川十六分会万田作業所の各チームだった。

試合の推移を見ると、新港グラウンドの方で、若手を揃えた四山Aチームが勝ち残ったのは当然だったが、もう一つ実力を期待されていた三川十六分会新港作業所チームが第一回戦で同じ三川の一～二分会チームに敗退、早くも姿を消したことが、二回戦で執行部チーム（一回戦は不戦勝）が、相手の三川一～二分会チームに八対七と善戦、ハラハラさせたことと共に意外とされている。

四山グラウンドの方は、なんといっても決勝進出決定戦をたたかった三川五～六分会チームと、同十六分会万田作業所チームの試合をあげなければなるまい。

スコアの二対一にも見られるように、初めから最終回まで息づまる投手戦を展開。また見ごとな守備も披露され、見る者は応援するのも忘れ、手に汗握る思いで飛び出す美技に拍手を贈った。

最後に新港グラウンドでの四山Aと三川十六分会万田作業所チームの対決となったが、はげしい打撃戦の末、十一対七で四山Aチームが栄冠をにぎったのである。

こうして三池労組の〝春闘勝利ソフトボール大会〟は終ったが、みんなは一人ひとりの胸のなかに春闘への気組みがみなぎっていることを確認することができ、あとの打ちあげ会で改めて団結の尊さを、酒を汲み交わしながらしみじみ味合った。

経営者へ抗議ハガキ

主婦会も要求獲得へ

七九春闘の本番を迎えた炭労では、五月四日より二割減産を闘い、一時間五十分の時限ストをはじめ、引きつづき五月九～十日は四十八時間のストにはいり、長期で闘う決意をかため、生命とくらしを守る闘いをつづけています。

長びく不況とインフレの中で、大企業は減量経営をしながら増収増益をほしいままにしています。にもかかわらず今日に至るも、三井石炭は貯炭増や出炭経費の炭価赤字を理由にゼロ回答を示し、誠意のひとかけらもありません。

自民党政府と独占資本は一つになって弱い者いじめをおし進め、物価高の今日、国鉄料金値上げにみられるように、勤労国民に負担増のしわよせをかけるのをはじめ、たばこなどの公共料金値上げが予定されていると聞きます。働く者と家族の赤字家計はますます苦しくなるばかりです。

炭労の、長期で闘う態勢に私たち主婦会も腹をすえ、春闘にとりくみます。

まず、江崎真澄通商産業大臣と石炭協会の有吉新吾会長へ、炭鉱労働者の現状、低賃金の実態、労働強化、保安確立、賃上げ要求の要請と抗議のハガキ行動をおこし、主婦の声を反映させて参ります。炭労中闘委へは激励をおこない、さらに第二波の四十八時間ストでの抗議集会においては、主婦会員も仕事を休み、この決起集会に多数の参加をし、三池に働く多くの仲間に訴えのビラ配布行動をして参ります。賃上げ要求の満額獲得まで、ともに頑張りましょう。

（この項、島文枝主婦会会長）

春闘見たまま

子供について思う

四山指導部　岩下　澄子

子供の成長を思えば感慨無量です。まだまだ半分も育ってはいませんが、まがりなりにもまっすぐ伸びていっていることに満足しています。

主人の助言をたよりにしてきたものですが、組合員・主婦会員の人達にも大変お世話になり、指導をあおぎ、また自ら経験したことも勉強になりました。

ちまたに見る新聞は、いつも子供の自殺や非行が載せられていてうんざりさせられます。どうしてこんなことになるんだろう、と家では話しています。

子供のそうした行為には、私たち母は、対岸の火としてみているわけにはまいりません。子供達とよく話し合い、主人の意見もききます。

私達は、家族一人ひとりの誕生会をやり、これは秘密ですが、主人に対してわずかながらのプレゼントの品を贈ります。決意をこめてみんなで話したり、うたったりしたことをテープにとり後で聞いています。子供達も声を立てて笑いこけながら、何回も熱心に聞いています。そうした何でもないことが、親と子の愛情へとつながっていくのではないでしょうか。

国際育児憲章の今年、私は深く考えさせられました。

×

この欄に、主婦の皆さんのご投稿をお願いします。ぜひご協力ください。

――編集者

園芸

サツキの〝手入れ〟

管理を間違えないように

◇灌　水

今は、サツキにとって大切な時期。水切れさせないように。サツキにとって一番の大敵は、花腐れ病。この病気は湿度の高い状態に発生しますから、ツボミが開きはじめたら頭からの灌水はさけ、根元に十分に水を与えます。しかしツボミや新芽が生気を失わないように夜露にあてること。

◇薬剤散布

せっかく咲いた美しい花なのに薄茶色に花ビラがただれてしまう。これが花腐れ病です。カビの一種で高温多湿を好み、冬土の上で越冬。気温が十五度くらいになると活動をはじめます。

このような花は、早く摘み取り焼き捨てます。カビですから、空気中を飛んで繁殖します。ダイセンステンレスを千五百倍～二千倍にして散布するとよいでしょう。他の薬品は花に薬害をおこしますから、なるだけしない方がよいでしょう。散布は日中温度の高い時はさけ、朝夕などにすることです。

◇サシメの準備

花をよく見て、品種本来の特徴の出ている花の枝などには印をつけておきましょう。サシメの取り方は白無地、大絞り、小絞り、大小絞りなどがよく、赤無地、覆輪、底白などは本来の花が咲きませんので要注意。

◇植替え

花が八分通り終ったら、残りのツボミを摘み取って植え替えます。鹿沼土に水ゴケ三割ぐらいまぜ合わせた用土に植え込む。私は鹿沼土だけの単用ですませていますが、山ゴケでも結構です。

方法は鉢から取り出し、周囲の小根を小刀などで切りおとし、古い用土をあまり根をいためないようにほぐし、樹形を考え、ていねいに植え込みます。その前に不用枝を切りおとし、枝作りする部分には十分針金をかけ、整姿をして植え込む。

なお、モチの木などの実は取りましょう。今年はモチの木などの実付樹木がいまだに目を楽しませてくれますが、これは木に取っては苦痛。早く取りのぞいてください。いつもなら小鳥のエサになっているところが、今年は暖冬で小鳥もエサに不自由しなかったものと思われます。

一歩町のそとに出ると、麦畑に出合う。風の渡るごとに穂波が流れる。

（園芸欄は、田上　勇さん担当）